

岐阜大学医学部看護学科教育プログラムに関する就職先における就業状況調査の結果報告

1. はじめに

本学の卒業生が在学中に身に付けた学力や資質・能力がディプロマ・ポリシーに照らしてどの程度達成されているかを検証し、教育の成果や効果を確認することを目的として、教育プログラムに関する卒業生の実業状況調査を実施した。

また、本学は、2022 年度に日本看護学教育評価機構（Japan Accreditation Board for Nursing Education ; JABNE）の、分野別認証評価を受審し「適合」との評価をいただき、さらなる教育プログラムの改善に活かすために実施した。新卒で採用され、就職後 3～5 年目までの本学科卒業生の実業状況に関する意見聴取により、看護学科のカリキュラムや教育プログラムの改善に活かしていきたい。

2. 基本情報

- 1) 調査期間：令和 6 年（2024 年）6 月～7 月
- 2) 調査対象：新卒で採用され、就職後 3～5 年目までの岐阜大学医学部看護学科の卒業生の指導担当者または管理者
- 3) 調査方法：卒業時、学務係が把握している就職先の看護部宛に「就業状況調査のご協力をお願い」を送付し、無記名 Web アンケート形式で回答を得た。
- 4) 調査施設：小学校・中学校等 11 ヶ所、病院 46 ヶ所、保健所・市町村等 14 ヶ所
- 5) 回収状況：回収数 65 名、回収率 29.2%

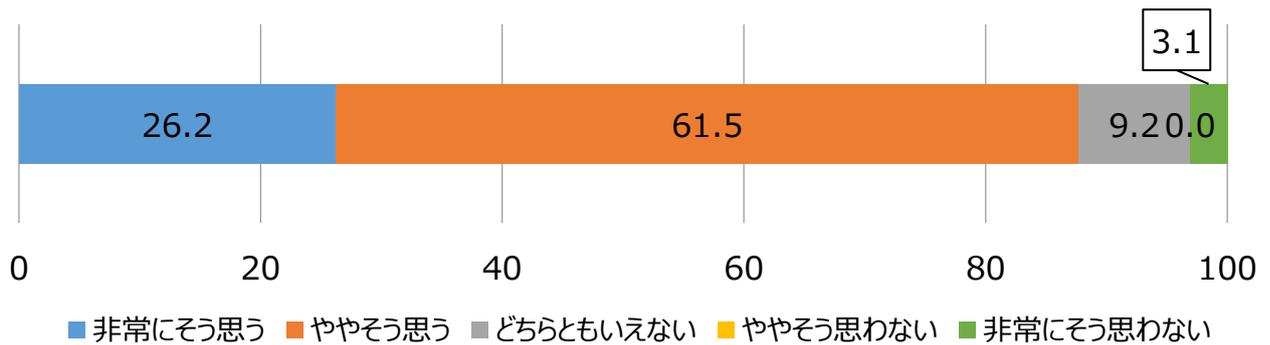
3. 結果

1) 対象者概要

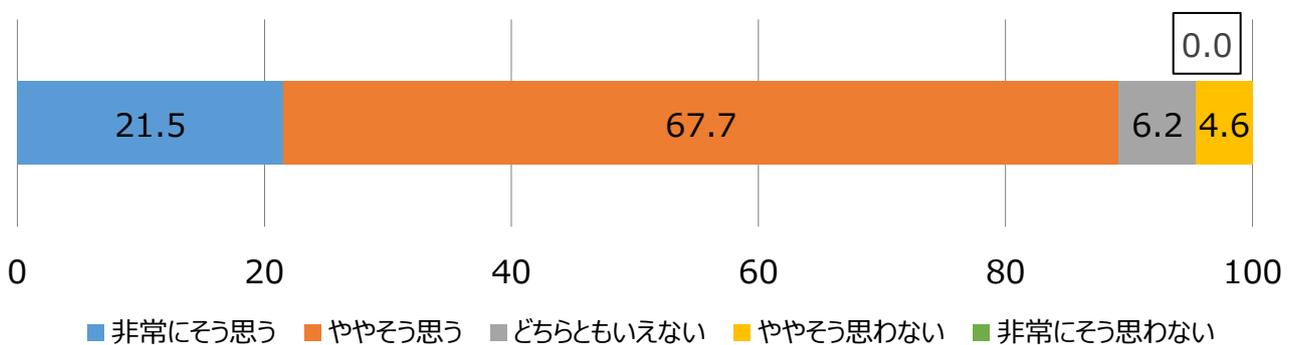
| | | 単位：名（%） | |
|--------|------|---------|-----------|
| 平均勤務年数 | n=65 | | 23.1年 |
| 職種 | n=64 | 看護師 | 53 (82.8) |
| | | 保健師 | 5 (7.8) |
| | | 助産師 | 4 (6.3) |
| | | 教員 | 2 (3.1) |
| 役職 | n=65 | 師長 | 25 (38.5) |
| | | 副師長 | 23 (35.4) |
| | | 主任 | 3 (4.6) |
| | | 校長 | 1 (1.5) |
| | | 教頭 | 2 (3.1) |
| | | 課長（課長） | 3 (4.6) |
| | | 係長 | 1 (1.5) |
| | | 役職なし | 7 (10.8) |

2) 入職時の卒業生の状況について (単位%) n=65

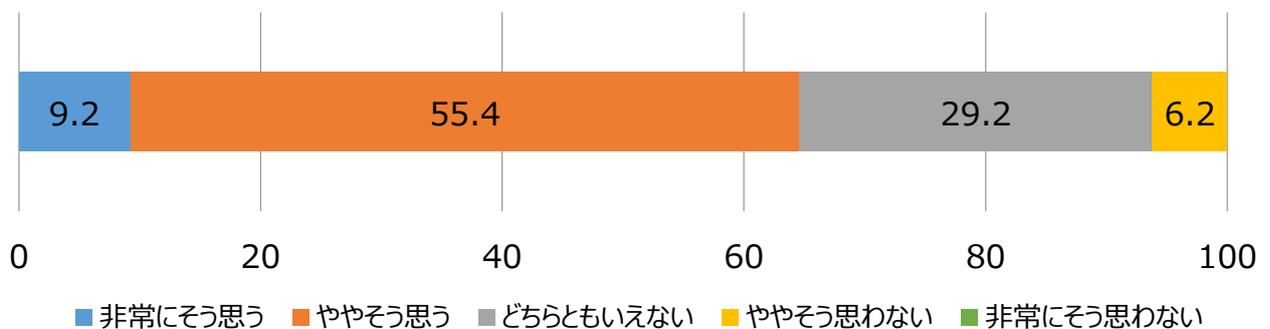
質問項目①：看護の対象である人間の尊厳及び人権の意味を理解し、擁護に向けた行動をとろうと心がけていた



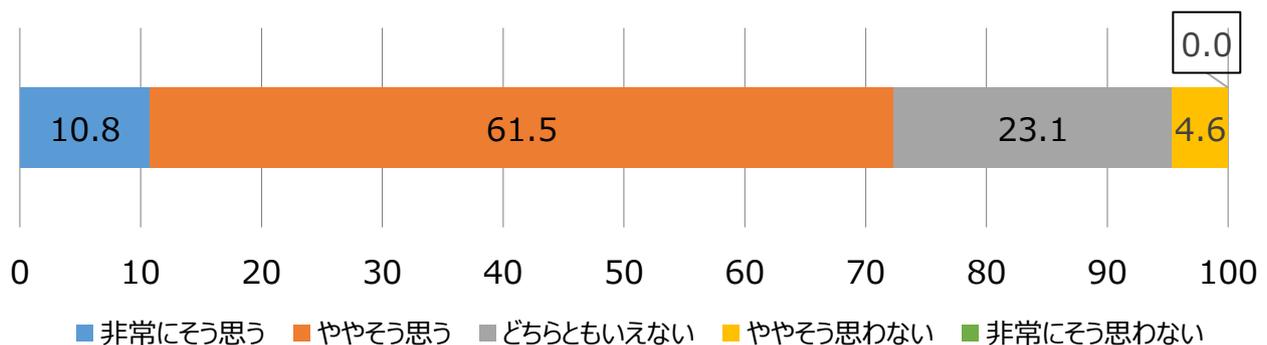
質問項目②：実施する看護について説明し同意を得ることができていた



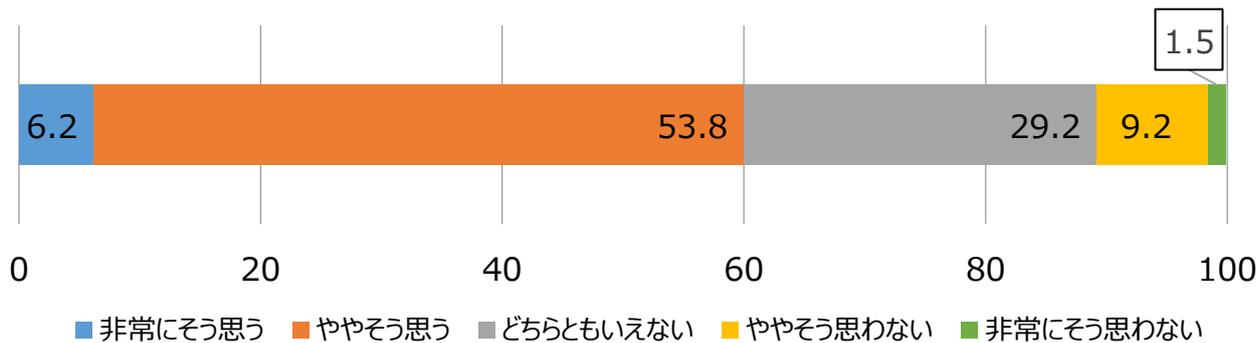
質問項目③：人間や健康を総合的にとらえ理解していた



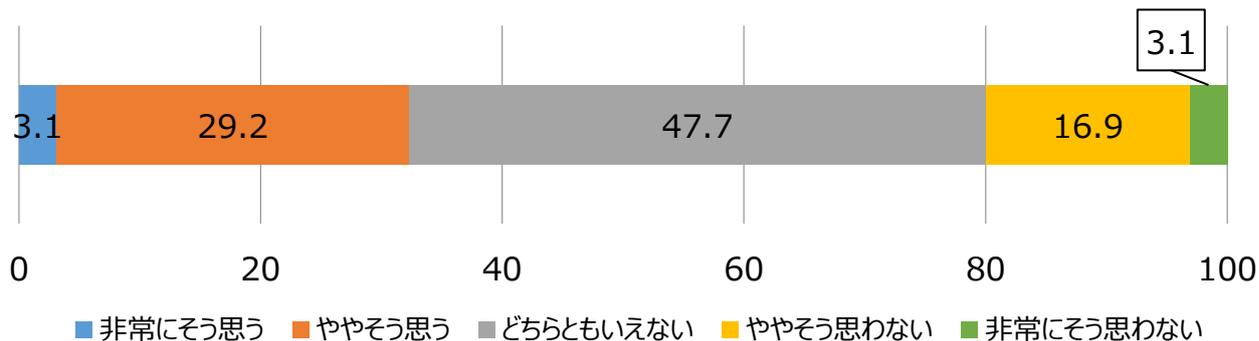
質問項目④：成長発達に応じた身体的な変化，認知や感情，心理社会的変化を理解したうえで，看護の対象の健康状態をアセスメントしようと心がけていた



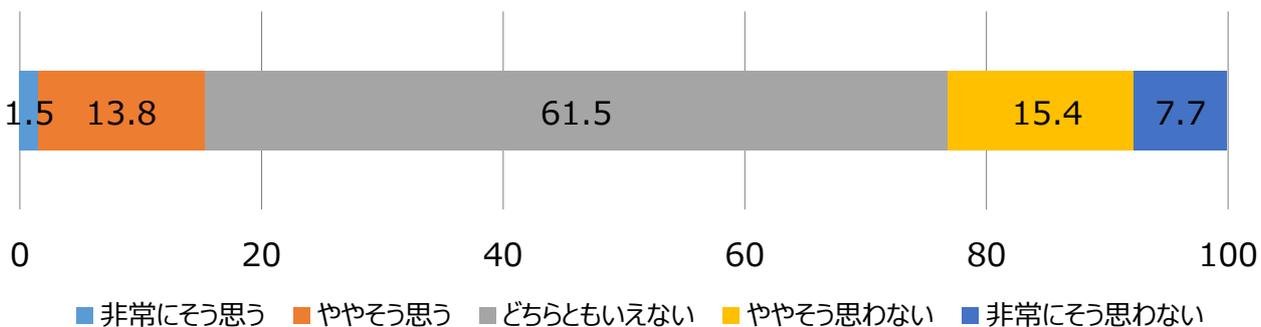
質問項目⑤：個人と家族の生活をアセスメントできていた



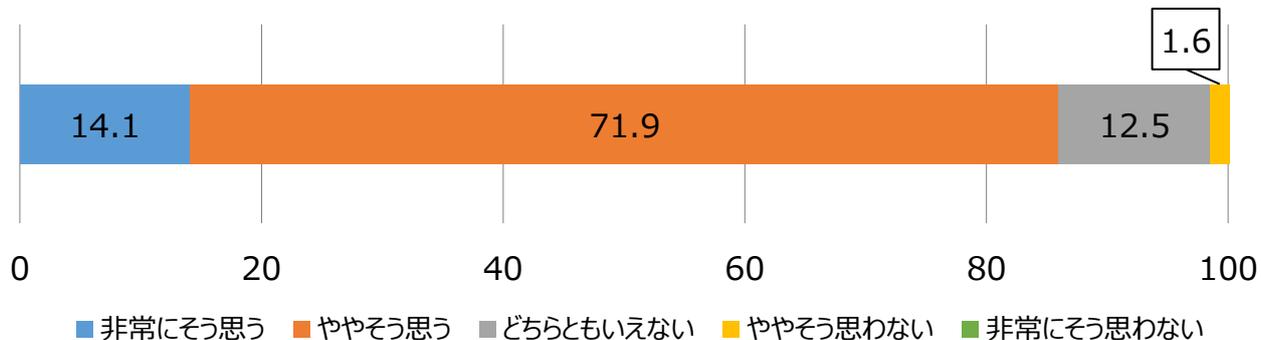
質問項目⑥：地域の特性と健康課題をアセスメントする方法について理解できていた



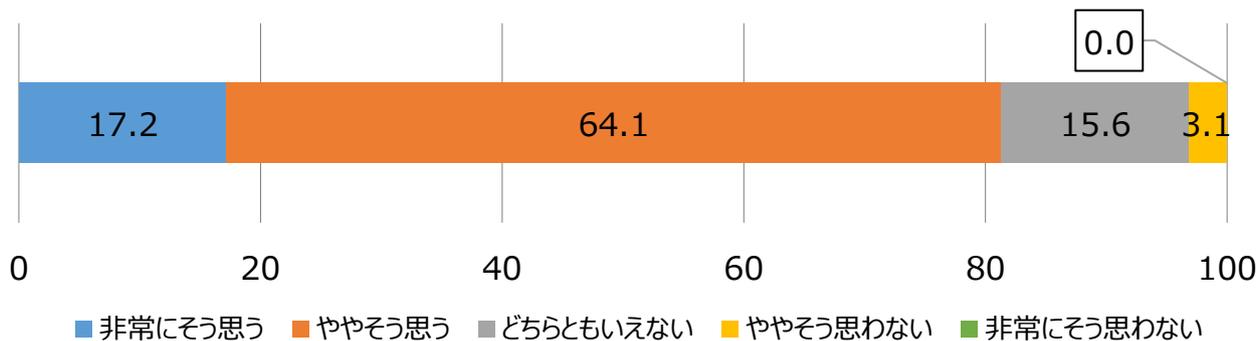
質問項目⑦：グローバリゼーション・国際化の動向における看護の在り方について理解できていた



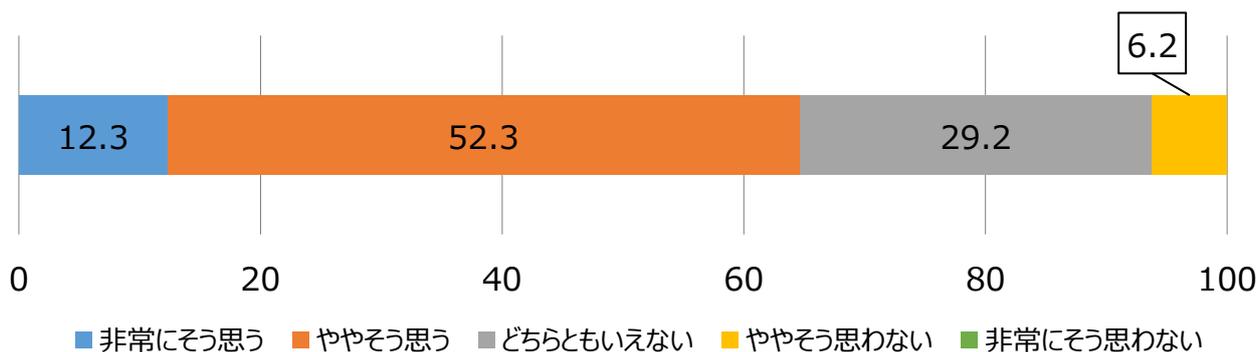
質問項目⑧：看護の対象となる人々と援助的なコミュニケーションを展開し、援助関係を形成できていた (N=64)



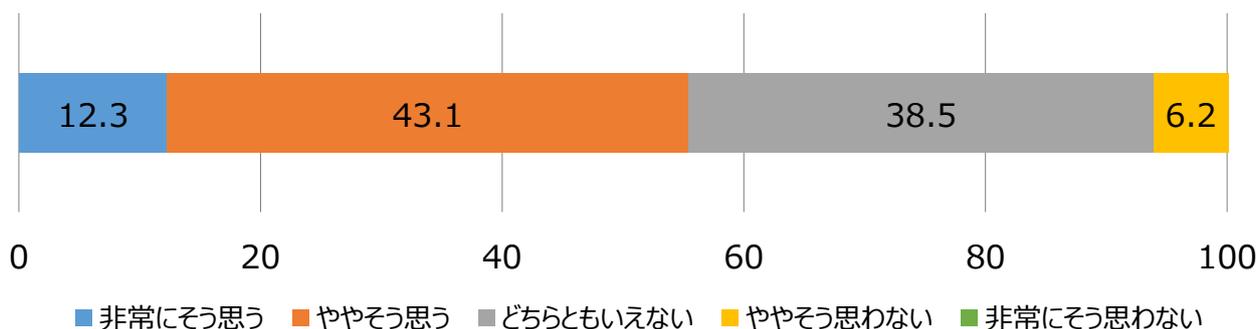
質問項目⑨：根拠に基づいた看護を提供する必要性を認識していた



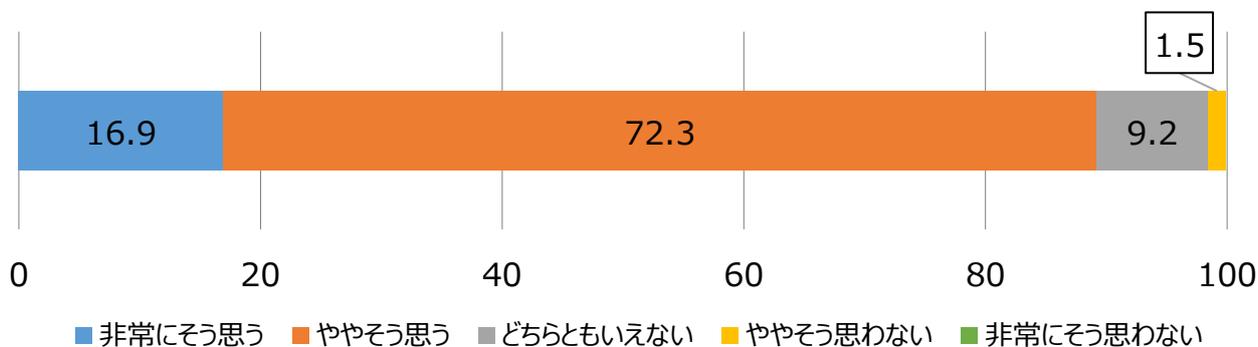
質問項目⑩：計画的に看護を展開できていた



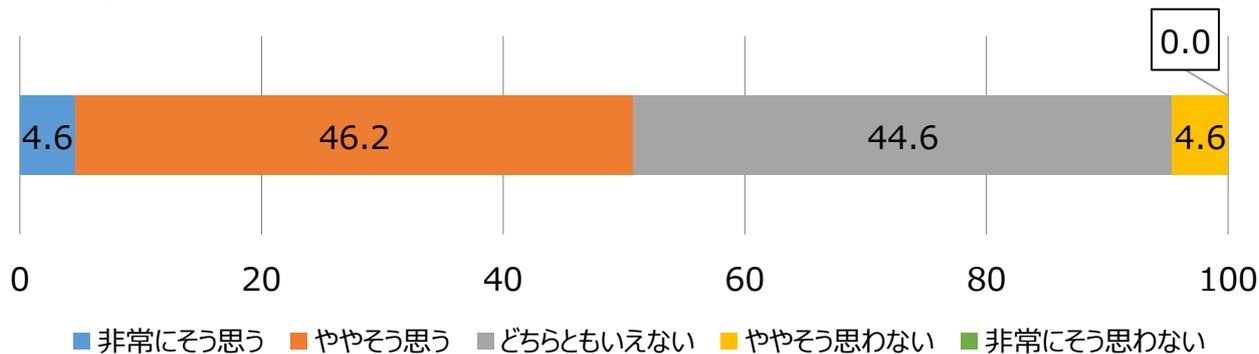
質問項目⑪：成長発達に応じて、健康レベルをアセスメントできていた



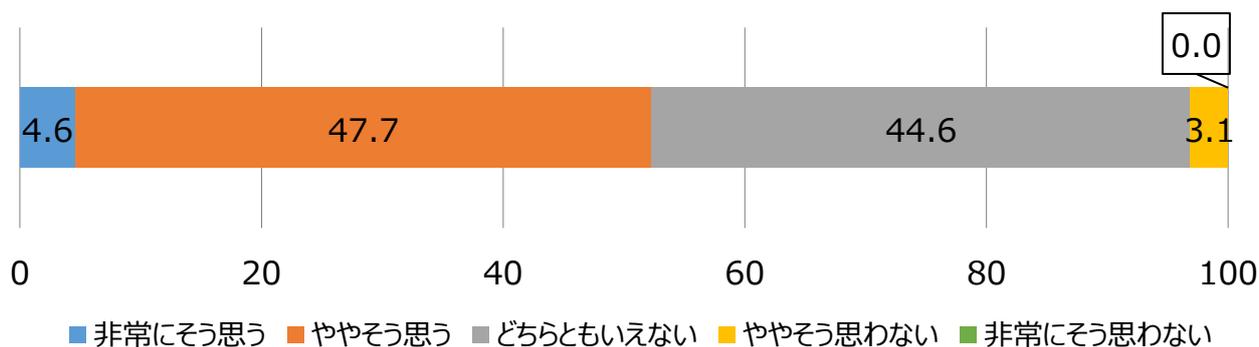
質問項目⑫：看護援助技術を適切に実施できていた



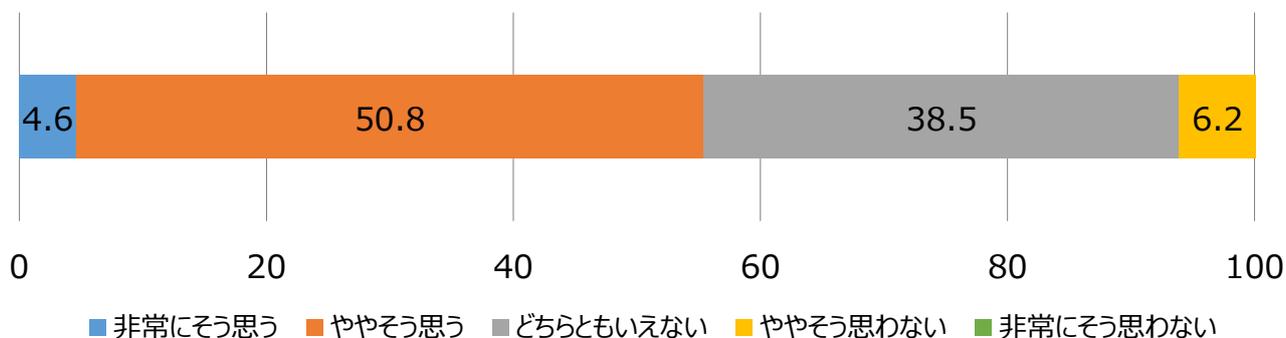
質問項目⑬：健康の保持増進と疾病を予防する方法について理解できていた



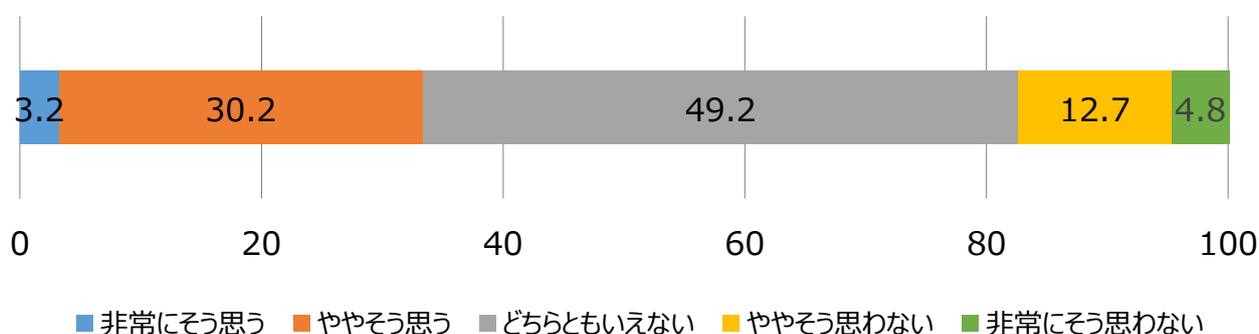
質問項目⑭：急激な健康破綻と回復過程にある看護の対象を援助する方法について理解できていた



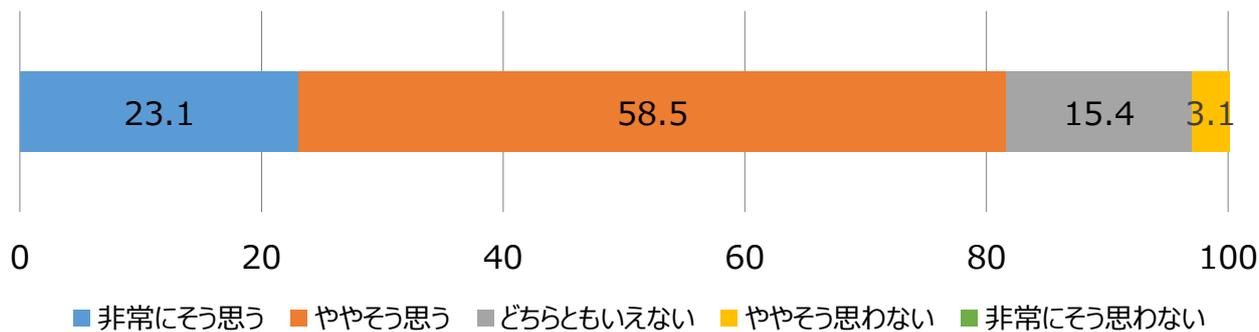
質問項目⑮：慢性疾患及び慢性的な健康問題を有する看護の対象を援助する方法について理解できていた



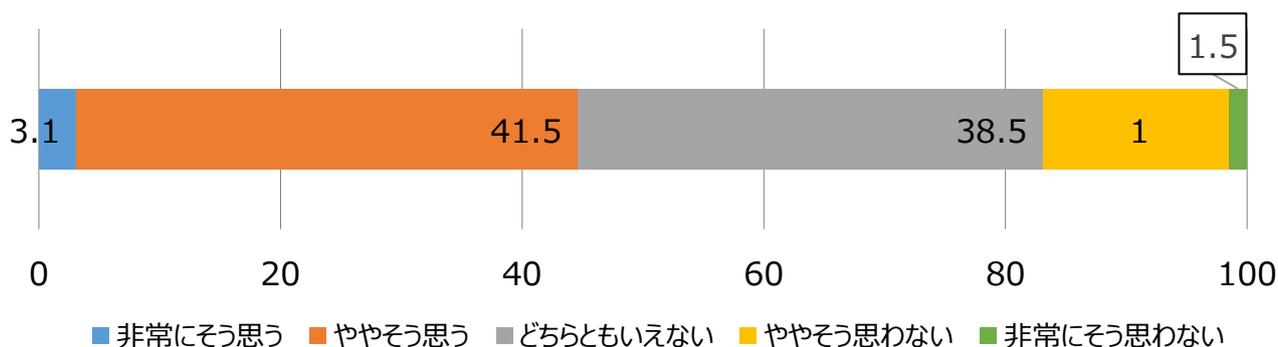
質問項目⑯：終末期にある看護の対象を援助する方法について理解できていた



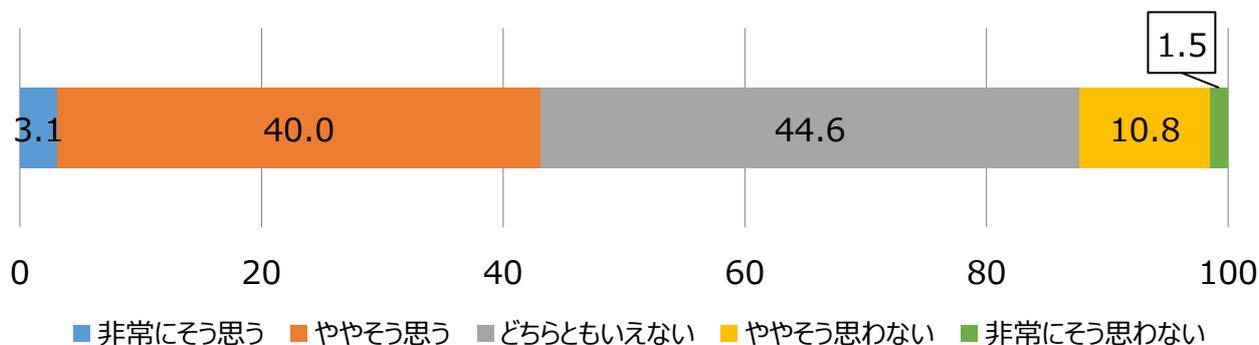
質問項目⑰：感染防止対策、医療事故防止対策について理解し、そのために必要な行動をとることができていた



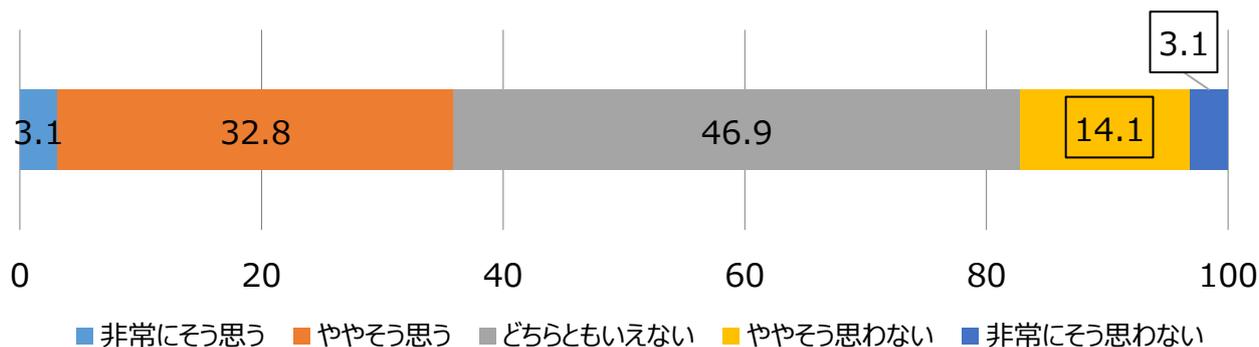
質問項目⑱：慢性的な健康課題を有する患者と家族が地域で生活できるよう、社会資源の活用方法について理解できていた



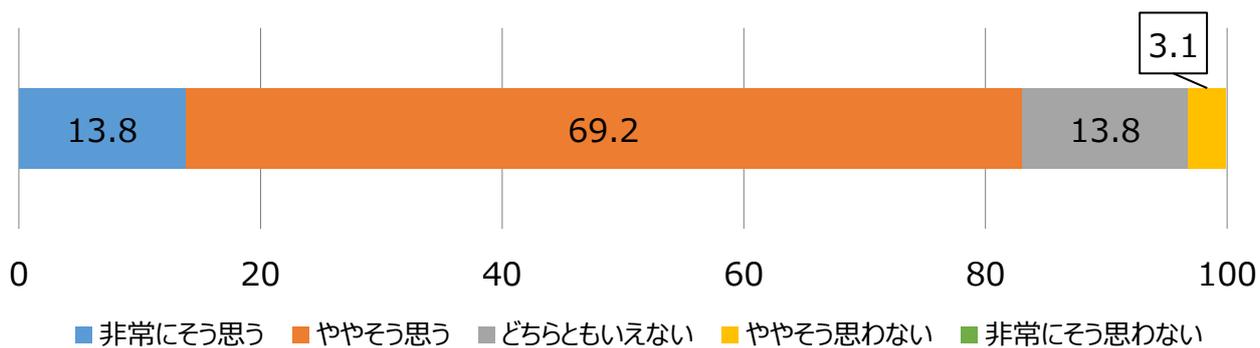
質問項目⑲：保健医療福祉における看護の機能と看護ケアを改善する取り組みについて理解できていた



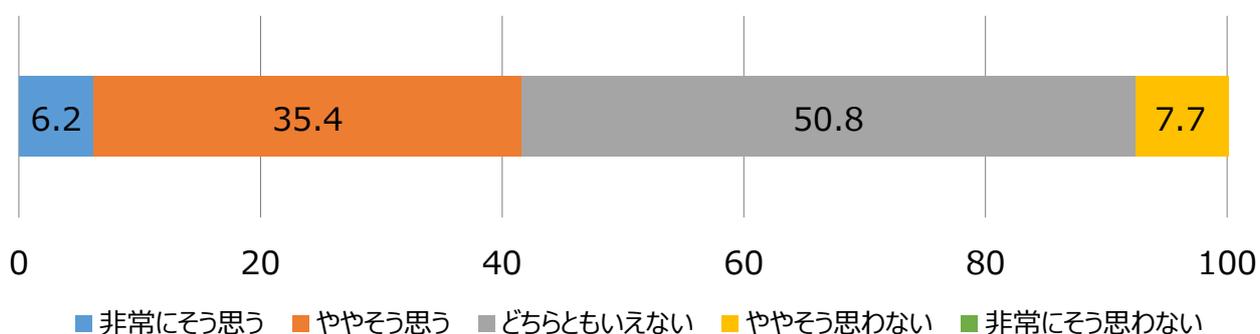
質問項目⑳：地域ケアの構築と看護機能の充実を図る方法について理解できていた(N=64)



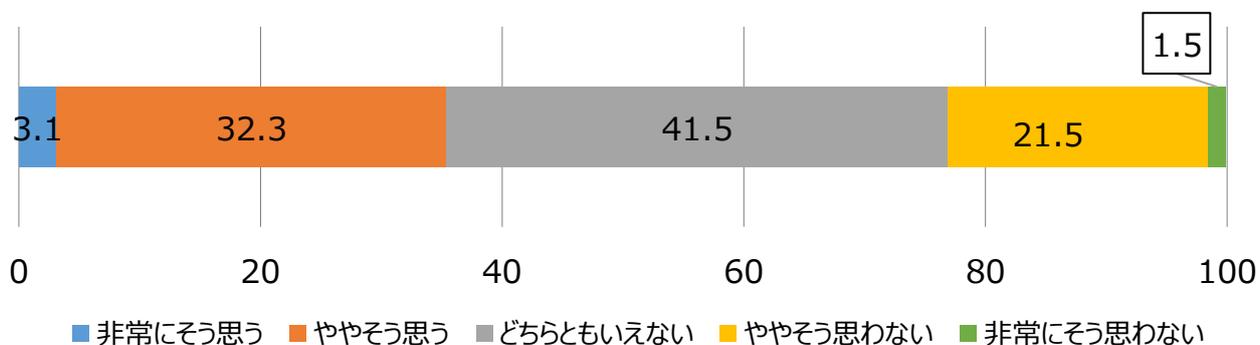
質問項目⑳：安全なケアをチームとして組織的に提供する意義について理解できていた



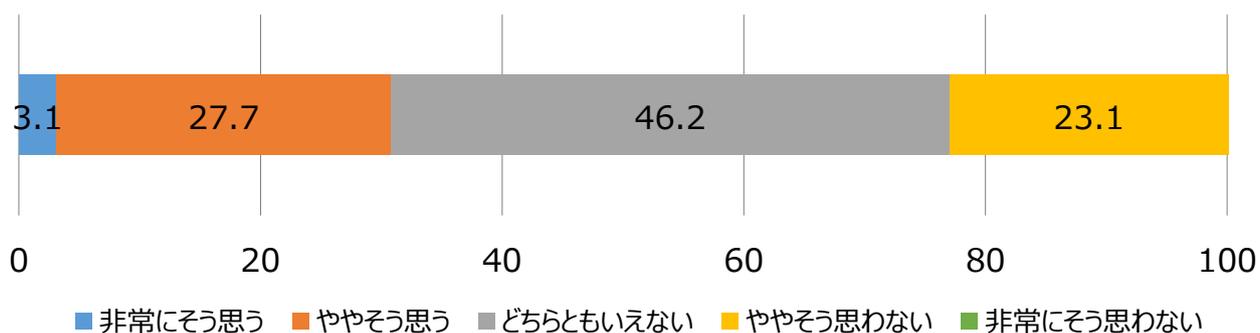
質問項目㉑：保健医療福祉における協働と連携について理解できていた



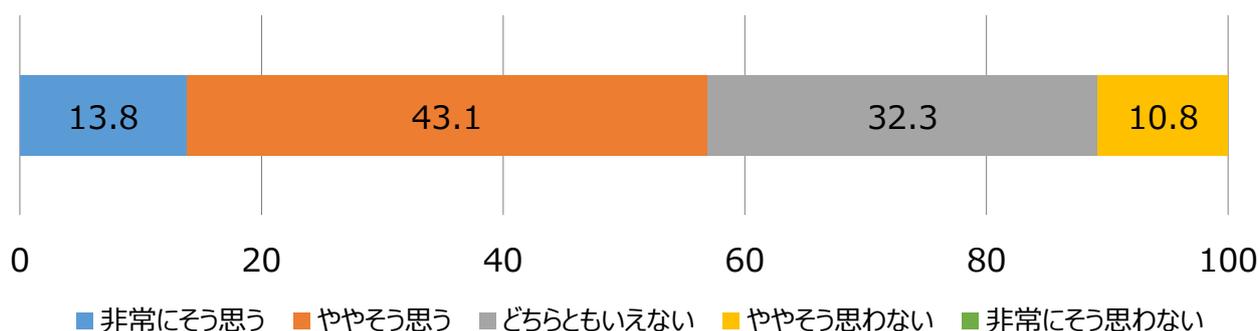
質問項目㉒：社会の動向を踏まえて看護を発展させていくことの重要性について理解できていた



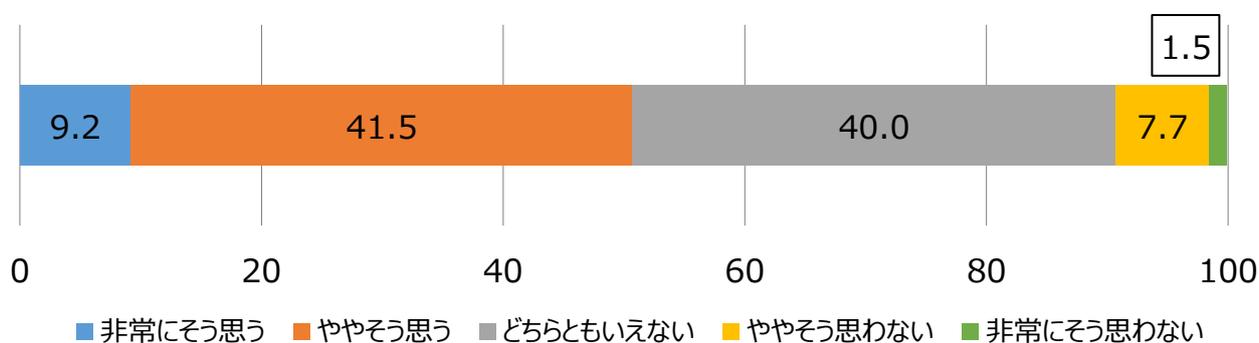
質問項目㉓：看護実践において、理論的知識や先行研究の成果を探索し活用できていた



質問項目㉕：専門職として生涯にわたり学習し続け、成長していくために自己を評価し管理するように心がけていた



質問項目㉖：看護専門職としての価値と専門性を発展させようとする姿勢がある



4. おわりに

本調査は、令和6年度の時点で、新卒で採用され、就職後3年目から5年目までの本学科卒業生の就業状況に関する意見を聴取した。頂いたご意見を、看護学科のカリキュラムや教育プログラムの改善に活かしていきたい。

お忙しい中、多くの質問に丁寧にご回答いただいた皆様に心より御礼申し上げます。